



## 那須特別支援学校の寄宿舎存続を求める意見書

昨年11月、県教育委員会より那須特別支援学校の寄宿舎を2023年の3月末で閉舎するとの発表がありました。

児童・生徒、保護者や寄宿舎指導員に、十分な説明も問題の解決に向けた話し合いもないままの寄宿舎閉舎の発表に、私たちは驚きと失望を感じました。そして怒りも湧いてきました。

那須特別支援学校の寄宿舎は、児童・生徒や我々保護者にとって、なくてはならない特別支援教育の資源です。

県北地域で特別支援学校に通うためには、居住地からの距離、少ない公共交通機関の大きな障壁があります。これは児童・生徒の我慢、保護者の努力だけで越えられるものではありません。この地域の児童・生徒に特別支援教育の保障をするには寄宿舎が必要です。

貧困やネグレクトなど様々な家庭や、大人の事情のために入舎をして教育を受けている児童・生徒の生活の場をなくさないでください。寄宿舎は家庭環境に困難を抱える児童・生徒にとって、学習環境が整うだけでなく、福祉や相談支援、社会的自立に繋がる要となるところです。寄宿舎があることで、入舎生の家庭にも支援の手が届きます。

閉舎の理由に利用者の減少がありましたが、寄宿舎の入舎希望は毎年定員を超える申し込みがあります。

	H29	H30	R1	R2	R3
入舎希望者数	38	38	41	35	28
入舎人数	27	27	26	26	26

令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症対策で、宿泊できる人数を制限していますが、入舎生が減少したという新聞報道とは異なります。

遠距離が理由の入舎生、家庭環境が理由の入舎生は全体の半分ほどですが、毎年多くの希望者がいます。それは寄宿舎が、学校卒業後を見据え社会的自立に向けて、個々の障がい状況に応じて丁寧に指導をしてくれるところだからです。

だから卒業生とその保護者、地域で障がい児者を支える方たちも、寄宿舎が果たしてきた大きな役割をわかっているからこそ、存続を望むのです。

もう一つの理由の建物の老朽化の件は、10数年前から特別支援学校教育振興会に改修改善の要望を出し続けていましたが、十分な対応がなされないまま、今回の閉舎の発表というのは納得できるものではありません。応急の改修をしながら建物を大切に使い、過ごしてきました。

入舎生は、建物の古さなど気にせず寄宿舎での生活を楽しみながら過ごしています。丁寧に関わってくれる指導員の方々、そして学校で共に学ぶ仲間との生活の中で、とても遅く成長していきます。本当に大切なところなのです。

どうか在校生とこれから入学する子ども達のために、寄宿舎の存続を心から要望いたします。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年3月8日

栃木県大田原市議会議長

君島孝明



【提出先】 栃木県知事 福田 富一 殿  
栃木県教育委員会教育長 荒川 政利 殿